

小・中学校適正規模化実施計画(案)作成にかかる意見交換会

- ・開催日時 平成 24 年 8 月 23 日(木) 午後 7 時～8 時 30 分
- ・開催場所 志筑小学校 多目的室
- ・出席者 保護者等 24 名

《意見集》

質問1

給食室は、千代田中の再整備ということではなく、志筑小に新設という案は無いのか。

回答1

給食室を建設する場所が確保することができない理由があります。現在の建物も当初から千代田中から運ぶことを想定して建てておりますので、従前のおり千代田中学校から運びたいという計画です。

質問2

千代田中学校の給食室を増設するというのであれば、志筑小学校の教室を増設するときと一緒に給食室をつくるといったことはできないのか。

回答2

現在の建物の設計の当時、どうしようかということがありまして、当時から上佐谷小学校へのケータリングが行われており、同様に志筑小学校も行うということで今の形になっています。できるだけ近い場所で給食が作られることが理想と思いますが、建物の配置など給食室を設けることを想定していないので、これ以後の増築スペースが見当たらないということもありまして、千代田中学校の現在の給食室を活用しながら同じような形態で提供していくという考えでおりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

質問3

統合によって2クラスになるというお話だが、2クラスになっても大した人数にならないと思う。そうすると、小学校6年と中学校3年間の9年間の長い年月になるが、この9年間、この2クラスですっと行くことに対しては、合併に関してメリットが無いと思うが、その辺はどうか。

回答3

小学校は、大いにメリットがあると思います。統合して1学年の人数が40人から60人近く、1クラスあたりは20人から30人のクラスとなります。一クラスの規模も適正な規模となりますし、それが2クラス、次の年になるとクラス替えができるわけです。中学校はできれば、2つ3つの小学校が集まるのが望ましいと思っております。ですが今回は、1小、1中になるわけです。これは中学校に入ったら、義務教育最後の3年間で、教科の先生も違うし、部活動はあるし、学校生活そのものが、大きく変わると思っておりますので、そこで気分を転換してやるということがいいと思います。学年の友だちは同じかもしれませ

んが、部活動とかそういういろいろな活動がでてくると思いますので、そういうことで気持ちを切り替える。それが大事なかと考えているところです。

質問4

今の意見について、今いじめ問題がある。小学校でいじめられた子が、中学校に行っても全く持ち上がりなので、またその繰り返しになってしまう。そういうような考えはないか。

回答4

いじめが無いことが望ましいことですが、少人数の中であったとしたら、それがずっと続くわけですから、ほかの友だちに自分の気持ちを伝えるというような、そういう相手がいないというのが少人数だと思います。ですが、人数が多くなれば、友だちも増えるでしょうし、自分の味方をしてくれる人も増える。そういう考え方をしております。

質問5

結局それはメンバーが同じなので、確かに友だちも増えると思うが、対象となってしまう子は上の学校に行っても対象になってしまうのではないかと思うが。

回答5

これは、いじめは無いようにとみんなで頑張っていくしかないと思っています。これは人数の大小にかかわらず、起きることだと思います。それは起きないように、やるしかないと思います。そのいじめの撲滅については、今、教育委員会でも検討をしております、今度9月3日から校長先生を先頭に頑張ってもらおうということにしておりますので、いじめについては、そういうことで人数の大小にはあまり関係がないのではないかと考えております。

質問6

1 小学校、1 中学校の持ち上がりの地区の対象となっているようだが、結局人数がいないと有る部活と無い部活とが出てきてしまっているので、部活をしたいために希望の学校に行けるといった検討の余地はあるのか。

回答6

現在でもやりたい部活動が無いということで、違う学校へ通うという措置はとっております。学校の選択制とは制度的に違いますが、文部科学省でも学校を選択する理由の一つとして事例として挙げていることから我々としても拒む理由ではないということで、統廃合に関係なく実施されている現状です。ただ、その理由で学校を選択している子たちは小学校時にクラブ活動等ですでに実施し、継続性が見られる子が多いようです。

質問7

それは、学校もその学校に通っているということか。

回答7

その学校に所属し、その学校の生徒になるということです。

質問8

その場合登下校等はどうなるのか。

回答8

基本的に学区外申請ということで保護者の方の責任によりやっております。本来学区を定めていることもあり、通学の安全を図るため危険箇所等の把握に努めているのですが、エリアが広くなると把握が難しくなってしまうので、登下校については保護者の方の責任でお願いしております。

質問9

市外の中学校へ通うということは認められるのか。

回答9

受け入れ先の市町村の教育委員会の判断となります。特別な理由が無い限り難しいです。ただ、一例として戸崎原という地区が昔からの協定で、土浦市の小学校、中学校に通っているといった地理的な理由による実例がありますが、例外的なことです。

質問10

給食室を作れないということであるが、増築部分ほどのあたりになるのか。

回答10

不足する教室の増築予定箇所は、今現在普通教室がある東側の部分を増築スペースと考えております。

質問11

今回の統廃合計画の中で下稲吉小学校、下稲吉東小学校、千代田中学校、下稲吉中学校は適正規模化の計画には盛り込まないという方針だが、12 学級、18 学級を標準としてやっていると、下稲吉小学校は 24 クラス、将来の推計でも 24 クラス、下稲吉東小学校は 18 クラス、下稲吉中学校は 19 クラス、千代田中学校は 7 から 6 クラスということで、この基準を満たしているのは下稲吉東小学校だけである。他の下稲吉小学校、下稲吉中学校、千代田中学校は要件を満たさないにも関わらず、適正規模化の今回の案から外されているということはどういうことなのか。

回答11

下稲吉地区は、12 学級 18 学級よりは多い学校になっています。これを、千代田中学校の組合せとしますと適正な規模を上回ってしまうということで、対象としないと説明を申しあげましたように、今回はその対象としないとしております。適正規模化というのは、統合だけではなく、学区の見直し等も含め実施をされている例がございます。ただし、今回市の方針としては統合による適正規模化ということでこの 5 年間はやっていこうとしております。それは、従来までの学校単位とすることで、その子どもたちは一緒に統合校へ行ってもらうという方針で、学区の見直しは行わず統合で適正規模化するという手法です。その 5 年間では、それぞれ上回っている学校は統合では解決しませんので、適正規模化は対象とならない。その次の 5 年間で学区の見直しも含め見直しをするというような段階になって

きますので、そういうところで状況をみながら違った手法を考えざるを得ないという場合が出てくると思います。そういう事情で統合の相手先を組み合わせることができませんので、対象としていないということになります。

質問12

あくまでも、教育の効果の向上を図ることを前提にこういうことが行われるべきである。どちらかと言えば統合をしようとしている学校よりは誰がどう見ても下稲吉地区の方が問題が多くその証拠として教頭も二人も設置しなければならない、県からも特別なサポート役の人も派遣する。それは県に数校しかないと聞いている。また、諸問題、数々の問題が日常茶飯事に起きていて、そういう中で新設された下稲吉東小学校や、下稲吉中学校、下稲吉小学校あたりも作った時から学区割が失敗したということも昭和50年代から言われている。優先順位としては一番問題のあるここに手を付けずに大した問題もないところを先にやるというのは目的を逸脱しているのではないかと思います。千代田中学校においては、何年たっても5から6しか学級が増えないということは、早々に統合するよりも学区の見直しをしてそこから手を付けていく方が、お金もかからないし、手間もかからないし、その上で、今問題の山積する下稲吉地区の教育における問題を解決する一つの方策につながるのではないかと思います。であるので、優先順位を間違っているのではないかと思います。一般の市民感覚で、あえて反対の多い地区の統合をやって、教育の中で大した問題もないところをわざわざ統合していくということよりも、今、目先の問題に苦慮している教育の現場、家庭の問題がある一番の問題の地区を先送りにするというのは、ちょっと、教育的立場に居られる方々にとっては、優先順位が違うのではないかなと思う。

回答12

下稲吉地区については、おっしゃるとおりいろいろな問題があるかもしれませんが、それは、人数が多いからそうなんだということではなくて、教員の指導だとか、地域の教育力だとか、家庭の教育とかそういうものが、まだまだ足りないということで、中身の問題で勝負をしなければならないと考えております。人数は確かに多いですが、それは、そのまま教員の指導力を向上させたりしながら解決をしなければならないと考えております。ですが、今回、周辺の小規模の学校を一緒にして適正規模にするということは、これは皆さんも先ほどの説明で納得いただいたのではないかと思います。やはりある程度の規模が必要であると、人間形成のうえで、切磋琢磨、いい意味での競争をするというような経験をするには、あまりには少人数ではいけない。ということから今回の適正規模化に踏み切ったわけでございます。

千代田中学校については、下稲吉中の半分でも人数を持っていけば数としてはよいわけなんです。距離が離れすぎている。もともとは千代田中学校があつて、それが増えてきて、下稲吉に中学校を作つて分かれたわけなんです。それで、今度は下稲吉中学校が大きくなってしまった。だからもう一回千代田中学校へ戻してもらおうというわけには、なかなかいかない。下稲吉中学校の保護者の方もなかなか納得できないのではということで、困っているところです。できれば学区を変更していけるようになればいいかと思われませんが、それは次の課題と考えております。

質問13

増築部分は敷地南東側ということだが、そうなるとグラウンドを削って増築ということになると思うが、グラウンドスペースが確保できるのか。また、震災でグラウンドの一部ががけ崩れを起こしていたので、地盤が大丈夫か心配だが、その辺をお聞きしたい。

回答13

統合の不足する教室数6教室、特別支援教室が1つか2つで、校庭の一段高くなっているところまで増築は可能と見込んでおります。地盤の問題は現在の建物も恒久的な耐力を確保するためにもボーリング調査をし、杭打ちなどしておりますので、増築においても同様の対応になると思われま

質問14

現状で学童保育の教室が1教室しかないが、統合で人数が増えた場合、学童に入る人数も増えると思うが、その分の増築も併せて行われるのか。

回答14

学童専用の部屋を増築するというよりは、増築する教室等のなかで余裕教室を生み出して使ってもらった方がいいだろうという基本的な考えは持っております。ただ、新しい学校ができた場合に、学童を新しい学校で開設するのがいいのかというところの確認が必要でしょうし、その場合何人ぐらいの規模でどれぐらいのスペースが必要になってくるだろうというところを見ながら、増築スペースを生かせればと思っております。

質問15

審議会の答申で、児童・生徒の登下校に関する安全を十分に確保することとされている。志筑小学校の周りに歩道が無いところが多い。その点に関し今後どのように対応するのか。

回答15

答申ではこういうところに努力してくださいということではいただいているものです。これを踏まえて計画を作っておりますので、これの実現に向けて努力していくということです。歩道の設置については、どこからどこまで設置をするという計画はありません、今後、通学路を定める上で新たな危険箇所が出てくると思います。どういう箇所をどういう順番で設置していくのか関係部署と協議を進めていきたいと考えます。

質問16

小学1年生の下校の時間と高学年の下校の時間がずれる場合があると思うが、例えば運動会の練習の時とか、こういう場合のスクールバスは低学年用に出されるものなのか。

回答16

参考資料として、他の市町村の運行状況を載せていますが、運行回数のところで登校の時は1回で下校の時は2回としている例が多いようです。小学校では、低学年の早く帰る組、高学年の遅く帰る組への配慮になると思います。検討委員会で検討いただくことになると思いますが、このようになるのが一般的なようです。

質問17

お子さんを持っている家庭からすれば、小学校に行っている6年間くらいは近くに学校があった方がいいというような気持ちが大半だと思うが、こういう基準が出て各学校で賛同がなかなか難しいのではないかと思う。上佐谷小学校なんかは何十年も前から話が出ている。これまで視察で児童が4人くらいの学校に行っても話を聞いてみても「小学校は統合なんかしなくてもいいんですよ。」というような答えが返ってくる。そういったことから小学校くらいは近くの学校へ通わせたいという気持ちが多いのかなと思う。学区ごとに「統合していいですよ。」という意見が出てこないと思うが、その辺はどうなのか。

回答17

そのような考えをお持ちの方はたくさんいらっしゃると思います。この意見交換会は、霞ヶ浦地区は終了し、今日から千代田地区が始まりました。たしかに地元の区長さんから学校が無くなるのはさびしいという意見も聞かれました。ですが、大半、霞ヶ浦地区については、これだけ少なくなってしまっはしょうがないだろうということから、スクールバスの手配などに話が向いておりました。千代田地区についてはこれからどういうふうになるか分かりませんが、あまりにも少なすぎると、学校というのはこういうものではない。たくさん先生と、たくさん生徒とふれあって人間性というものは磨かれていくものだ、少ない人数で6年間を過ごすということはかわいそうなことなんじゃないかと考えます。山間部のように何時間もかけて登下校をしなければならないということではなく、スクールバスを通せば、40～50分で通うことができますので適正規模化に踏み切ったわけです。